

議会活性化特別委員会 行政視察報告

1月25日から26日にかけて、委員7名、議長、事務局随行者2名の合計10名で、東京都調布市、神奈川県秦野市を訪問し、議会ICT化の取り組み（議場スクリーンの設置等）について視察してきました。

■東京都調布市

議会ICT化の取り組み

調布市議会では、軽易な設備によるパソコン・プロジェクターを使用している議場スクリーンを導入していました。

視察当日は、導入の目的・経緯や資料の投影方法、その他議会活性化の取り組みについての話を聞いてから、実際に議場を見学しました。

調布市議会では、低予算でスクリーンに資料投影できるように、80インチのスクリーン・プロジェクター一式を約23万円で購入していました。

資料の投影は、質問議員のみができることとしており、投影方法については、プロジェクターと議場パソコンを有線接続した上、質問議員がパソコンからファイルを開いて資料提示するなどの操作を行うものでした。また、投影資料は、直接スクリーンをカメラで映すことで、インターネット中継や議場の小型モニター

からも見られるようになっていました。

導入効果としては、当初の利用者は議員の半数以下でしたが、現在では約90%の議員がスクリーンを使用するようになったこと、また、言葉だけの説明よりも資料・写真を見せることでより分かりやすくなったとのことでした。

課題としては、投影する資料の肖像権・著作権の留意徹底、現在は投影を認めない動画やインターネットサイトの表示への対応などがありました。



東京都調布市議会

■神奈川県秦野市

議会ICT化の取り組み

秦野市議会では、タブレット端末や会

議システムの導入とあわせて、議場の大型スクリーンを導入し、それらの使用基準や基本方針を定めていました。

視察当日は、実際の議場設備を確認しながら、導入の目的・経緯や資料の投影方法、その他議会活性化の取り組みについての話を聞きました。

秦野市議会では、当初、議場モニターを設置を検討していましたが、費用が数千万円に及ぶことからスクリーンに切りかえることとし、傍聴席やインターネット中継を通して十分視認できる性能を持つプロジェクターや150インチのスクリーンを約117万円で購入しました。

資料の投影は、質問議員と答弁者の双方ができることとしており、投影方法については、プロジェクターと事務局のタブレット端末を有線接続した上、会議システムの機能を使って、投影者のタブレット端末に議場全体のタブレット端末の画面を同期して、投影者が操作を行うものでした。

導入効果としては、グラフィックや写真を用いることにより、論点が明確になり、より活発な議論が展開されるようになったこと、また、インター



神奈川県秦野市議会

ネット中継を視聴している市民から、一般質問等で資料が提示されることで質問内容が分かりやすくなったなどの意見があり、傍聴者の反応も良くなったとのことでした。

課題としては、質問議員が資料の説明をする際、説明が抜けてしまうと会議録で何を指しているのか分からないことがあるため、議員には何の説明をしているかを明確にしてもらう必要があるとのことでした。

■視察を終えて

今回は、検討中の議場モニター（スクリーン）の設置について先進地の調査を行うため、調布市議会と秦野市議会へ視察をしてきました。

調布市では、軽易な設備によるスクリーンの運用について、学ぶことができました。

秦野市では、タブレット端末や会議システムと連動したスクリーンの運用について、学ぶことができました。

今回、両市ともに、スクリーン導入の実情や課題点などを聞くことができ、大変有意義な視察となりました。

今回の視察で学んだことを踏まえ、今後、加賀市での議場モニター（スクリーン）の導入に向けて、委員会での検討を、より一層進めていきたいと思っております。